

平成 27 年 3 月 4 日
フードバレーとかち推進協議会

フジッコ株式会社とフードバレーとかち推進協議会との包括連携協定について

本日、フジッコ株式会社(本社 神戸市:代表取締役社長 福井 正一)とフードバレーとかち推進協議会(会長 米沢 則寿)は、下記の内容で包括連携協定を締結しましたのでお知らせいたします。

1. これまでの経過

フジッコ株式会社は、創業当初より昆布の佃煮や煮豆等の伝統食を提供する、日本の食卓には馴染みの深い企業であり、国内を代表する食品加工メーカーの一つとして、「健康とおいしさ」、「素材の良さ」、「食の安全安心」を世の中に提供しています。これまで、「大豆イソフラボン」や「黒豆ポリフェノール」、「昆布の食物繊維やミネラル」、「カスピ海ヨーグルトの乳酸菌」などの健康効果のある商品の提供により、日本の「健康長寿社会」の実現のため、多大なる貢献をされています。

この度の両者の連携については、これまで数ヶ年にわたり、豆に含有する機能性素材の抽出に関する研究を行ってきたフジッコ株式会社、地域を挙げて枝豆の生産振興に取り組む中札内村農業協同組合を訪れた際に、十勝農業のポテンシャル、とかち財団をはじめとする試験研究機関、ひいてはフードバレーとかちの取り組みに共鳴・共感いただいたことに始まります。

その後、両者において、中札内村の枝豆をはじめとする十勝の農産物の活用による双方の強みを生かした取り組みの実現に向け、協議を重ねてきました。

2. 協定の目的

フジッコ株式会社とフードバレーとかち推進協議会は互いの資源等を活用し、連携しながらそれぞれの機能を効果的に発揮することにより、フードバレーとかちの推進に寄与することを目的とします。

3. 包括連携協定の内容

- (1) 食の高付加価値化に関すること
- (2) 地域産業の振興に関すること
- (3) 健康増進・食育に関すること
- (4) その他市民サービス向上、地域社会の活性化に関すること

4. 包括連携施策(第1弾)

地域の農産物を原料とする機能性素材を活用し、地域産業と連携した新たな商品開発に係る取り組みを実施します。

本協定を機に、フジッコ株式会社とフードバレーとから推進協議会は、地域の活性化のために貢献できるよう、連携して取り組みます。

以上

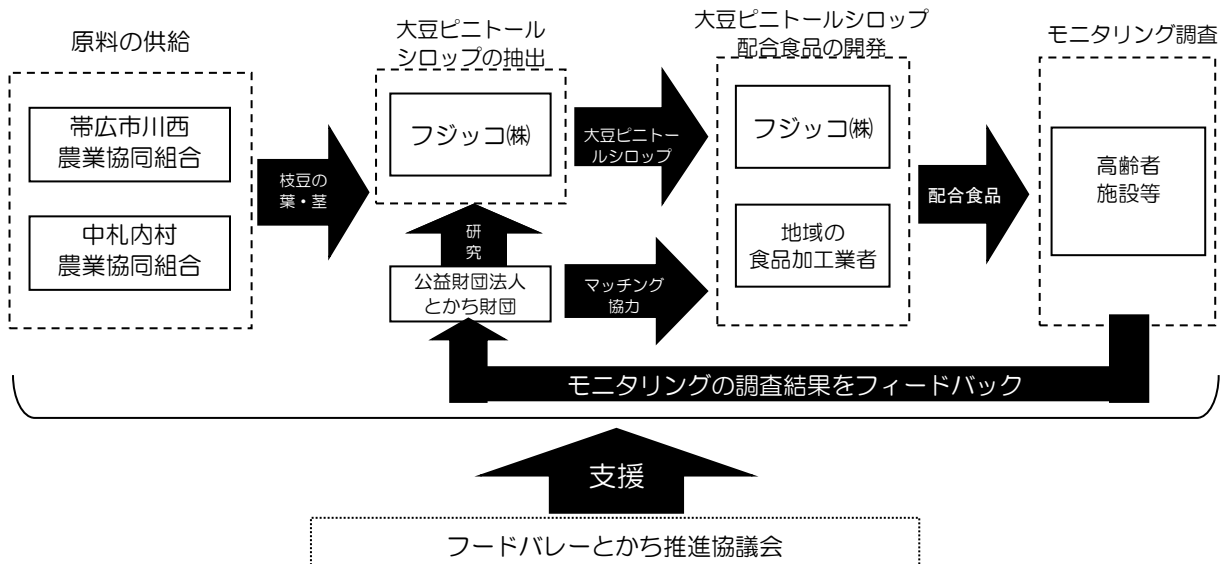
参考

【包括連携施策(第1弾)の概要】

○事業概要

フジッコ株式会社とフードバレーとから推進協議会は包括連携協定に基づき、十勝の代表的な農産物である枝豆の葉・茎を原料として抽出される[大豆ピニトール※]を活用した配合食品を、地域の食品加工業者や試験研究機関とともに開発・製造・販売し、新しいバリューシステムを構築することを目的にプロジェクトを共同実施します。

○実施スキームのイメージ



※ピニトールとは？

主に乾燥地帯の植物や、マメ科の植物に含まれている水溶性ビタミンであるイノシトールの一種で、血糖値を下げる作用があり、その効果が国内外で期待されています。海外では、主に運動選手を対象とした糖代謝改善用の健康補助食品として、市場ニーズがあります。